

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：34450

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884079

研究課題名(和文) ジャマイカ、スキン・ブリーチングが刷新する黒人性に関する文化人類学的研究

研究課題名(英文) Anthropological study on blackness and skin bleaching in Jamaica

研究代表者

神本 秀爾(Kamimoto, Shuji)

大阪物療大学・保健医療学部・助教

研究者番号：30732622

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：スキン・ブリーチングは肌のメラニン色素の量を減らすことで肌を明るくするために、化学薬品を用いる行為である。カリブ海地域、アフリカ大陸、北米大陸等の旧植民地や奴隷制度のあった各地に多くの実践者がある。本研究では、ジャマイカの現代の黒人性という観点からスキン・ブリーチングを理解することを試みた。本研究では、旧来のスキン・ブリーチングがヨーロッパ中心主義的思考にもとづいた、「標準化」を志向するものである一方、現在広がりつつあるスキン・ブリーチングは、グローバリゼーションの進展にともなう、個人主義や消費主義に方向付けられた、「個性化」を志向するものであることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Skin bleaching refers to the use of chemical substances to try to lighten skin tone by reducing the amount of melanin in the skin. Many people in the Caribbean, the African Continent, and North America engage in skin bleaching. This study attempts to understand skin bleaching from the perspective of Jamaican modern blackness. To achieve this aim, I collected the data from inquiries and photos through fieldwork, newspaper articles, and articles and books on skin bleaching. By analyzing these data, I clarified that while conventional skin bleaching is a method of conforming to European standard of beauty, the current trend of skin bleaching, which is sometimes done to highlight tattoos, aim to characterizing their bodies and is influenced by individualism and consumerism, which have been advanced by globalization.

研究分野：文化人類学

キーワード：ジャマイカ 黒人性 ファッション 身体加工 ポピュラー音楽

1. 研究開始当初の背景

ジャマイカはスペイン(1509年~1670年)、イギリス(1670年~1962年)の植民地支配を経験している。ジャマイカ人の祖先の多くは大西洋奴隷貿易でアフリカから運び込まれた奴隷であり、現在の人口のおよそ9割は黒人(Black)に分類されている。少数の白人が大多数の混血、黒人を支配する構造の下、植民地支配の期間を通じて、ジャマイカ人の中には薄い肌の色や直毛といった白人的(非黒人的)特徴を選好する価値観が根づいてきている。独立後も、このような外見的特徴と社会階層は、現在もある程度一致している。

そのようななかでも、黒人住民の側から、様々な自己規定の運動が生まれてきている。汎アフリカ主義的な思想にもとづき、人種としての黒人の優越を説いたマークス・ガーヴェイ(1887-1940)の思想や、1930年頃に始まった、ジャマイカの主流宗教であるキリスト教を再解釈し、黒人を選民と捉え、独自の「黒人らしさ」や「アフリカ人らしさ」を肯定的に再定義したラスタファラーイなどがその代表的なものであり、社会階層の下層に位置する人を中心に一定の支持を得てきている。両者ともに、「黒人らしさ」と同時に自分たちのルーツと重なる「アフリカ人らしさ」を追求するところが特徴であり、前者は1910年代から30年代を中心に、後者は1970年代以降、世界各地で共感者を集めている。

1980年代以降、ジャマイカで主流の黒人性に新たな変化が起きていることも指摘されている。先行研究では、個人主義的、消費主義的傾向の高まりなども指摘されるが、主に下層黒人たちを中心に、彼らの経験から立ち上がる「黒人らしさ」が「ジャマイカ人らしさ」と結びつくことで、ナショナルスティックな黒人性が主流になってきているとも指摘されている。

しかし、近年のこのような変化は単純に肌の色の黒さを礼賛する方向に人々を導かなかつた。これは、ジャマイカ特有の現象でもなく、アフリカ大陸の各地、南北アメリカ大陸、カリブ海地域の各地でも同時に進行している現象であるが、主に化粧品や化学薬品を用いたスキン・ブリーチング(肌の脱色・漂白)も多くおこなわれるようになってきている。新聞をはじめとしたメディア等において、健康を害するものであるという点や、黒人としての誇りを否定するものだという点からの批判も存在している。

以上の背景から、スキン・ブリーチング実践の分析を通じて、現代ジャマイカにおける黒人性の変化・多様化が進む過程を描き出すことが可能になると考え、以下の研究を着想し進めるに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、スキン・ブリーチングを、ローカル・ナショナル・グローバルな諸力との関係のなかで構築されてきた複数

の身体イメージと、みずからの身体のおこなわれる、加工を通じた交渉の実践と位置づけ、その実践を通じて共同性の源となる黒人性が刷新されていく動態を描き出すことである。

具体的に目的としたのは、以下の2点である。

(1) スキン・ブリーチングに関する先行研究のほとんどは、実践者と同じ黒人の研究者によって、実践に批判的な立場からおこなわれている。本研究では、研究代表者は、身体的特徴にも大きく異なる外国人という立場から、実践者や実践者を取り巻く人々と接触し、客観的な立場から分析・記述することを目的とした。

(2) 本研究では、スキン・ブリーチングと総称される実践についての理解を深めることで、内部の多様性を把握することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、資料・史料分析を含む文献研究と、ジャマイカにおける現地調査を組み合わせでおこなった。スキン・ブリーチングに関する先行研究の検討をおこなった上で、ジャマイカにおける伝統的な身体観とジェンダー観、ボディ・イメージやボディ・メイキング実践に関する理論的分析を進めた。現地調査は2015年の2月と9月の2回に分けて首都キングストン及びモンテゴベイでおこなった。現地調査に際しては、すでに既知の調査協力者もいたため、その人脈を生かしながらおこなった。現地調査の概略は以下の通りである。

(1) 2015年2月：理想的な身体イメージに関する調査

本調査では、第一に、キングストンの複数のショッピング・モールやダウントウンの露店などで販売されている化粧品のパッケージやポスター、美容室・床屋で用いられているモデルの写真やイラストの収集、ファッション雑誌の収集をおこなった。第二に、上記の場所で、実践者及び非実践者を対象として、実践状況や意識について、簡単なアンケート調査と聞き取り調査を合わせておこなった。非実践者には数名のラスタファリアン(ラスタファラーイの実践者・信奉者)も含まれていた。

(2) 2015年9月：複数の実践者に対するインテンシブな聞き取り調査と観察

2015年2月の調査の結果、タトゥーやピアスといった積極的な身体加工と結びついたスキン・ブリーチングと、一般的なスキン・ブリーチングでは志向が異なることが判明

していた。また、帰国後継続しておこなった、主にポピュラー文化研究、社会学的研究の立場からおこなわれた文献調査から、このような種類のスキン・ブリーチングの代表者が、現在のジャマイカで主流のポピュラー音楽であるダンスホールの人気男性ディージェイ(dee-jay、シンガーに類する)である Vybz Kartel (ヴァイヴス・カーテル)であることが分かった。そのため、今回の調査では、前者の、積極的な身体加工と結びついたスキン・ブリーチングの実践者に対して、実践状況やスキン・ブリーチングに対するモチベーションや美的な基準についての聞き取りをおこなった。

4. 研究成果

本研究の成果として以下の2点があげられる。研究代表者は既発表論文(雑誌論文)で、スキン・ブリーチングと総称される実践を、その志向の違いによって、「標準化」と「個性化」と便宜的に2つに分類して論じているため、本報告書においても、その分類を用いる。

(1) 先行研究では、肌の色の薄さや直毛といった、「非黒人的要素」がより良い就業の機会や、配偶者ないしパートナーの獲得を進めるものと論じられてきていたが、多くの実践者・非実践者も同様の認識を共有していた。主に女性向けの化粧品のパッケージやポスター、雑誌広告等から見出せる理想の身体イメージも、このような認識と重なり合うものである。しかし、一方で、実践をおこなう直接的な動機として上記の背景について触れることはしばしば避けられ、その代わりに「シミを隠す化粧品を使い始めたら色が薄くなっていった」等、偶然の結果として語られることが多かった。その背景には、肌の色などの身体的特徴は生まれつきのものであり、身体的特徴が社会階層とある程度一致する社会において、身体的特徴のみを変化させたとしても、実生活には反映されないという認識が関係していると考えられる。

このような認識のもとおこなわれるスキン・ブリーチングはジャマイカ社会で優勢な価値観に従うもので標準化を志向するものであり、それを強化するものであると言える。

(2) 上記、標準化を志向するスキン・ブリーチングとは異なる志向にもとづいた、個性化を志向するスキン・ブリーチングは、積極的な身体加工をともなっていた。前者は主に女性中心であり、販売されている商品のパッケージなども女性向けのものであった一方で、後者のスキン・ブリーチングの主な実践者は男性であった。

先行研究において現在のスキン・ブリーチングの代表的実践者と位置付けられていた Vybz Kartel は、新聞やインターネット上の記事はもちろん、現地の大学での講演記録が

現地の学術的な雑誌である *Jamaica Journal* に掲載されるなど、広範な注目を集めている人物である。彼は、スキン・ブリーチングを肯定する曲を発表するにとどまらず、前述の講演では、「スキン・ブリーチングはアフリカにルーツを持つことを否定するものではなく」、「あくまでも美的・精神的な価値観に基づくものであること」を強調している。

彼をはじめ、多くの若者が、肌の色を薄くすることで、自身の思いを込めたタトゥーを目立たせたり、同時に数多くのピアッシングをおこなったりしている。ここで追求されているのは、標準化でも、標準化に対抗する黒人性の再定義でもなく、美的・精神的な価値の追求であり、その手段としてグローバルな身体加工文化が利用されているのである。そのため、研究代表者が調査を通じて出会った、個性化を志向する実践者たちには、自らが実践をおこなっていることの是非をめぐる政治的な文脈への関心は低く、実践を積極的に肯定していたという特徴がある。

(1)(2)で述べたように、本研究が対象としたスキン・ブリーチングには大きな違いがある。本研究の成果は、主に皮膚の表面に関わるものであるため、どちらのスキン・ブリーチングについても、髪型やスタイルとの関係についても検討を加えることで、同時代の黒人性のあり方について、より深い分析が可能になるだろう。また、本研究では検討の対象にできなかった、ミドルクラス以上の層のジャマイカ黒人にとっての黒人性との比較検討もおこなわれる必要があるだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

神本秀爾

「加工を通じて雄弁な身体を獲得する肌を脱色するジャマイカ黒人の新たな美学」『黒人研究』85.65-73(2016), 査読有

〔学会発表〕(計2件)

神本秀爾

「ジャマイカ、スキン・ブリーチング実践者たちの共同性について」『黒人研究会第61回全国大会』,(20150627),京都(コンソーシアム京都)

神本秀爾

「黒い肌は恥ずべきものか ダンスホール・レゲエ・シーンにおけるスキン・ブリーチング論争の批判的検討」『黒人研究会』,(20140927),京都(龍谷大学)

出願状況(計0件)

名称:

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

神本 秀爾 (KAMIMOTO, Shuji)
大阪物療大学保健医療学部助教
研究者番号：30732622